

牧野富太郎ってどんな人？



高知県出身の牧野富太郎は日本が世界に誇る植物分類学の第一人者です。自らを「草木の精」と名乗り、一生を通じて植物分類学の研究に打ち込み、新種や新品種など1,500種類以上の植物を命名しました。また日本全国で採集調査を行い、生涯に40万枚とも言われる膨大な数の植物標本を収集、後世に残した蔵書は45,000冊を数えます。植物知識の教育普及活動にも全国規模で尽力し、地元の植物研究者、愛好家などの育成に努めました。78歳で刊行した「牧野日本植物図鑑」は、これまでの研究の集大成であり専門家から一般の人々まで今なお広く支持されています。

牧野富太郎肖像、植物園(コオログラン、ムジナモ、ノジギク)：高知県立牧野植物園提供

牧野富太郎略年譜

- 1862(文久2)年4月24日**
高知県高岡郡佐川町で酒造を営む裕福な商家の一人息子として生まれる。(幼名：成太郎)
- 1868(慶応4)年**
父、母、祖父が相次いで亡くなり、祖母に育てられる。(この頃、富太郎と改名)
- 1876(明治9)年**
佐川の名教館で高度な教育を受け、後に入学した小学校の授業に飽き足らず、2年で自主退学。
- 1884(明治17)年**
東京大学理学部植物学教室を訪ね、研究室への出入りを許され研究に没頭する。
- 1887(明治20)年**
『植物学雑誌』の副刊に携わる。
- 1888(明治21)年**
書術(すえ)と東京沿岸に所帯を持つこの頃、石版印刷技術を習得し、『日本植物志図譜』を自費出版。
- 1889(明治22)年**
大久保三郎と日本で初めて新種ヤマトグサに学名を付ける。横倉山でコオログラン発見。
- 1953(昭和28)年**
東京都名誉都民となる。
- 1956(昭和31)年**
佐川町名誉町民となる。
- 1957(昭和32)年1月18日**
94歳で永眠。東京都谷中の天王寺墓地に埋葬。没後、文化勲章を授与される。

2023(令和5)年は生誕161年

スエコザサ命名秘話

研究に惜しみなくお金をつぎ込む富太郎をあの手にて工面して献身的に支えたのが妻・書術(すえ)でした。学問に私情を挟むことを好まなかった富太郎ですが、誰よりも植物研究の重要性を理解し、思うままにさせてくれた妻の愛と内助に感謝し、1927(昭和2)年に仙台で発見した新種の植物をスエコザサと名付け、学名と共に『植物研究雑誌』に発表しました。発表の5日前に書術は病のため永眠しましたが、富太郎は妻に「世の中のあらむがわりやす子(妻)」と刻み、東京練馬の自宅の庭に建てて終生大切にしました。



牧野式植物図について

富太郎の植物図は、単なる写生ではなく、複数の個体を観察した上でその植物の典型的な形態を捉えている点、花期や果実期など各生長段階を精密に描写している点が最大の特色で、『牧野式植物図』とよばれています。緻密で精緻な描写、表現力は世界的に高い評価を受けています。描画にあたっては主に鉛筆筆を用いていますが、自ら加工するなど、道具にもこだわりがありました。右図)コオログラン



好物

- 【すき焼き】
「父は牛肉のすき焼きが大好きです。やはり牛肉をいたいでいたけれど、こんなに長生きをしたのではないと思います。」(牧野富太郎自叙伝「父の果腹、牧野種代より」)
- 【トマト】
西洋酢をかけて食べる。
【コーヒー・紅茶】
コーヒーはブレンドするほどのこだわり。

草木の精かも知れん

自叙伝において「私は植物の愛人としてこの世に生まれ来たように感じます。あるいは草木の精かも知れんと自分で自分を疑います。」と述べていた富太郎。植物採集へ出かける際には必ず、シャツに襟ネタイ、恋人である植物に会うのだからと、植物への愛と尊敬の気持ちを感じていました。晩年、病床にあっても植物採集や珍しい植物を見つけた事などを見て翌朝家族に話していたそうで、家族が富太郎を植物の精ではないかと思うほどでした。

富太郎ゆかりの植物たち



ハイカオウレン、"仙台産"、コオログラン、キンツツシ、ヒメキランソウ、ジャウロウホトギス、ノジギク

オリ

練馬区立 牧野記念庭園

富太郎が1926(大正15)年から亡くなるまでの約30年を過ごした住居と庭の跡地。園内には、富太郎ゆかりの深い植物を含め約300種類以上の植物が生育するほか、富太郎の使っていた書齋が残っています。存命時の書齋の再現展示が令和5年4月3日に公開されています。



アクセス：西武池袋線 大泉学園駅(南口)から徒歩約5分
【東京都練馬区】

東京都立大学 牧野標本館

富太郎の没後、遠旅から寄贈された未整理標本(牧野標本)を元に設立。牧野標本は所蔵点数の約3分の1(約16万点)を占めており、現在では野外で見ることができない絶滅した植物等の貴重な標本を多数含んでいます。



アクセス：京王相模原線 南大沢駅から徒歩約10分
【東京都八王子市】

国内の牧野富太郎ゆかりのスポット

六甲高山植物園

1933(昭和8)年に開園した歴史ある植物園で、開園当初、何度も牧野富太郎が来園し、講話などを行いました。海抜865mの六甲山頂付近に位置しており、街中では見られない珍しい高山植物や寒冷地植物を約1,500種観賞できます。



アクセス：阪神御影駅・JR六甲線駅・阪急六甲駅から神戸市バス16・106系統で六甲ケーブル下駅下車。六甲ケーブルに乗り換え、六甲ケーブル山上駅から六甲山上バスで高山植物園バス停下車。徒歩すぐ。
※阪神御影からは16系統のみ
【兵庫県神戸市】

小石川植物園

「小石川植物園」の名で親しまれている東京都立大学大学院理学系研究科附属植物園。富太郎は同大学初代教授の研究室への出入り許可から始まり、出入り差し止めにも合いましたが、のちに助手から講師となり77歳まで務めました。



アクセス：都営地下鉄三田線 白山駅A1出口から徒歩約10分。東京メトロ丸の内線 茗荷谷駅入口12から徒歩約15分
【東京都文京区】

牧野植物園 情報



植物研究交流センター 令和5年5月20日 OPEN!

植物の資源研究を行う新しい施設「植物研究交流センター」が完成。誰でも自由に見学できる実験室や、子ども向けプログラムを開催するキッズラボも登場。3階には、眺望抜群のレストランや牧野博士関連グッズを販売するショップもお楽しみいただけます。

イベント情報は牧野植物園のHPをご確認ください。
<https://www.makino.or.jp> 検索

高知県立牧野植物園

〒781-8125 高知市五台山4200-6
TEL 088-882-2601
【開園時間】9:00-17:00(最終入園16:30)
【休園日】年末年始12/27-1/1
ほかメンテナンス休園あり
【入園料】一般730円(高校生以下無料)



MY遊バス 情報

ようこそ、「歩ける植物図鑑」高知へ。

高知県立牧野植物園 植物学者・牧野富太郎のふるさと高知。県全域で観光博覧会「牧野博士の新年休日〜らんまんの舞台・高知〜」を開催中。四季の草花をはじめ、自然、食、歴史など本県の魅力を存分に体感ください。



高知県



らんまんの舞台・高知 牧野博士の新年休日 Dr. Makino's New Holiday in KOCHI

牧野富太郎 ゆかりの地めぐりマップ



牧野富太郎が連続テレビ小説のモデルに!!

令和5年度(2023年度)前期 連続テレビ小説「らんまん」(NHK) 放送中

牧野富太郎 主なゆかりの地


富太郎が詠んだとともに

©公益財団法人高知県牧野富太郎記念財団
特別企画展「牧野富太郎展2022
『富太郎が歩いた高知』を改装

Field Work in Tosa

自然環境の保全のため、貴重な植物の採集は
しないようお願いします。
高知県の豊かな自然がいつまでも続くよう、
大切な植物を守っていきましょう。


5 大月町



番号0890-62-8133(大月町観光協会)
月光坂へのアクセス/高知西南交通バス
[大月役場前]より徒歩約12分

若き日の富太郎は大月町を訪れ、ソナレンギク等を新種として発表しています。富太郎生誕150年に、富太郎がかつて足踏で見たという幻の“足踏桜”を探そうと、地元の人々がそれらしき白い花を咲かせるヤマザクラを見出しました。この桜は、満月になると満開になるという言い伝えから月光桜と呼ばれ、3月下旬頃のライトアップでは、幻想的な姿をみることができます。


6 足摺岬



番号0890-82-3155(土佐清水市観光協会)
アクセス/高知西南交通バス「足摺岬」
下車すぐ

二十代の富太郎は、1ヶ月かけてこの一帯の植物を調査してまわり、非常に多くの植物知識を得たといわれています。壮年期、東京にいる富太郎のもとに、この辺りで採集された奇妙な植物の標本が届けられました。研究の結果、富太郎は日本初となる新科と新属を立ちあげて、新種の寄生植物ヤッコソウを発表しました。記載論文には、精巧な牧野式植物図が添えられています。


1 仁淀川町



番号0889-35-1333(仁淀川町観光協会)
中津溪谷へのアクセス/
伊野ICから車で約1時間

「仁淀ブルー」で有名な仁淀川の上流部に、ヤマトグサ発見の地である名野川を有しています。ここは、富太郎が幾度もなく通った新種を発表した場所。四国カルストの東端に位置する黒滝山ではクロタキカズラが、鳥形山ではトリガタハンショウヅルが富太郎によって新種として発表され、山の名を冠した和名がつけられました。若き富太郎を育んだ、まさに植物の宝庫といえる場所です。


2 越知町(横倉山周辺)



番号0889-26-1060(横倉山自然の森博物館) アクセス/黒潮観光バス「宮の前」下車-徒歩約10分

アカガシの原生林や多くの希少植物が残る、植物の宝庫・横倉山。隣接する佐川町出身だった若き日の富太郎もこの山に魅せられ、足繁く通いました。ジョウロウホトトギスを発見してロシアのマキシモヴィッチ博士が学名を、富太郎が和名を命名したことは有名な話です。その後も、富太郎はヨコグラツクバネをはじめこの山で採集した標本を基に多くの植物を新種として発表しました。横倉山の様には、富太郎が新種記載のためのタイプ標本を採集したヨコグラノキが今も現存しています。


3 佐川町



番号0889-20-9500(さかわ観光協会) 牧野公園へのアクセス/JR「佐川」下車-徒歩約58分

牧野富太郎の生まれ故郷。生家の裏山にある金峰神社周辺では2月頃に、富太郎が幼少期から親しみ、晩年は故郷を思い起こさせた植物バイカオウソウを見ることができます。また、桜を愛した富太郎は、当時高知になかった「染井吉野」の苗木を東京から佐川町に送りました。この苗木をきっかけにたくさんの桜が植えられ、名所として賑わいました。戦争によって一度は失われましたが、その後、地元の方の尽力で桜を復活させ「牧野公園」となり、富太郎の分骨もおこなわれました。今も高知を代表する桜の名所であり、地域の方々が育てた山野草が見られるお花スポットとしても注目されています。

4 馬路村(魚梁瀬)



番号0887-44-2333(馬路村ふるさとセンター) まいごちよつて家「魚梁瀬」へのアクセス/
高知龍馬空港より東に車で約2時間

「高知県の樹木」である銘木「魚梁瀬杉」。魚梁瀬地区を中心に自生しているスギの通称です。樹高50mに達する大木が群れをなす千本杉は杜松で、日本三大美林の一つとされています。千本橋の大杉は樹齢300年ともいわれ、植物採集や指導のため訪れた富太郎もきっとここで目にしたことでしょう。富太郎も乗った、森林鉄道の遺構も見逃せません。



7 三原村(星ヶ丘公園)



番号0890-46-2111(三原村役場)
アクセス/土佐くらしお鉄道「平田駅」より
車で約10分

若き日の富太郎は三原村を訪れ、今ノ山で採集した標本などを基に現在は絶滅危惧種となっているトサムラサキを新種として発表しました。富太郎が植物園にも描いた絶滅危惧種ヒメノボタンの数少ない自生地を守ろうと、地元の方々による保全活動が実を結び、9月頃には星ヶ丘公園(ヒメノボタンの里)で種子から育てた可憐なヒメノボタンの群生を見ることができます。

8 高知県立牧野植物園 (高知市五台山)



番号088-882-2601(高知県立牧野植物園) アクセス/MY選バス「牧野植物園正門前」下車すぐ

「日本の植物分類学の父」牧野富太郎博士(1862-1957)の業績を顕彰するため、富太郎逝去の翌年1958年4月に高知市の五台山に開園しました。「植物園を造るなら五台山がええ」と富太郎が生前に候補地として提案した場所へ建設されました。園内では、四季折々約3000種類以上の草花をはじめ、温室の熱帯花木や、土佐寒蘭センターではカンランならびに日本伝統園芸植物など多種多様な植物に出会うことができます。牧野富太郎記念館 展示館では、富太郎が描いた植物図や収集した標本、写真などから、その生涯や業績を知ることができます。

9 安芸市 (伊尾木洞)



番号0887-35-1122(安芸市観光協会)
アクセス/土佐くらしお鉄道「伊尾木」下車-徒歩約97分

渇きの浸食によりできた洞窟で、高さ5mもある岩壁には貝の化石が見られます。ホウシシダ・ホウライシダ・シロヤマゼンマイ等の暖地性シダ植物7種が壁面を覆っており、これらが一ヶ所に生えていることが珍しいため国の天然記念物に指定されていて、周辺では約50種ものシダ植物が見られます。富太郎もこの地を訪れ、シダ植物を採集しています。

10 室戸岬



番号0887-23-1610
(室戸世界ジオパークセンター)
アクセス/高知東部交通バス
「室戸岬」下車すぐ

富太郎は室戸岬周辺で、植物採集や観察会を行いました。この一帯にはアコウをはじめ、シロギクや富太郎が学名を命名したハマアザミなどが見られ、これらの亜熱帯性樹林および海岸植物群落は国の天然記念物に指定されています。富太郎は著書のなかで、「誰か一山をこの珍樹のアコウ林にして(中略)海南の地に一等の珍名所を造る珍愚者は土佐にはないかな」と残しています。

富太郎エピソード

EPISODE 1 ヤマトグサ
日本人による国内初の新種発表
仁淀川町名野川で採集した標本をもとに、1889(明治22)年、27歳の富太郎は東京大学の久原三郎と共に「植物学雑誌」に学名 *Theligonum japonicum*、和名ヤマトグサを発表しました。これは、国内において初めて日本人によって新種として学名が発表された日本の植物分類学史上記念すべき出来事でした。ヤマトグサの記載論文において、富太郎は「極めて珍奇とすべき新種」と書き記しています。

EPISODE 2 ムジナモ
1890(明治23)年、28歳の富太郎は、東京都江戸川区小岩で世界的にも珍しい水生の食虫植物を発見し、ムジナ(アナグマ)の尾に例えて和名を付けました。誰も見たことのない花が描かれた富太郎の精密な植物図は世界に驚きを与え、日本の牧野富太郎の名が世界に知られるきっかけになりました。ムジナモは現在、絶滅の危機に瀕している。地元による保護活動が行われている埼玉県羽生市が最後の自生地とされています。

EPISODE 3 ノジギク
1884(明治17)年、富太郎は22歳の時に、現在の仁淀川町で見出し、野路に生えていたことから和名をつけましたが、あとになって本州の瀬戸内海沿岸・四国(南東部を除く)・九州の東海岸の主に海岸沿いに多く自生することが判明しました。県内では、南国市を流れる物部川より東には分布しておらず、住み分けるようにしてシロギクが分布しています。開花期は11月～1月。

EPISODE 4 「仙台屋」
高知市中須賀の商家「仙台屋」にあった桜の園芸品種、淡紅色の花は縁が濃く大変美しく、富太郎が大変気に入ったことでよく知られています。終の棲家となった東京都練馬区の自宅の庭にも植えていました。牧野植物園には樹齢60年ほどの名木があり、3月下旬～4月上旬の見ごろの時期にはライトアップされた幻想的な姿を見ることができます。